

## 中国の中東政策：イランとサウジアラビアの国交回復を仲介

エイミー・グッドマン、トリタ・パルシ著、脇浜義明訳、田中一弘補訳

原典：Democracy Now, 2023年3月13日

宿敵同士のイランとサウジアラビアが7年ぶりに外交関係を樹立し、それぞれ大使館を設置することで同意した。両国は中国の立ち合いで3月10日に北京で協定に調印した。この和解を促進させたのは中国で、世界情勢において中国が躍進し、中東で米国の影が薄くなっていることを表している。米国は重点を中東からウクライナとインド・太平洋地域に移した。全米イラン系アメリカ人評議会の創設者の一人で、現在クインシー研究所（正式名称は責任ある政治手腕をめざすクインシー研究所）の副会長である作家・アナリストのトリタ・パルシは、「例え中国の仲介であっても、中東が安定すれば、結局米国にとってもよいはずだ」と言った。さらに彼は、米国の中東政策はイスラエル擁護が中心で、最近イスラエルとアラブ諸国との関係正常化を助けているが、イスラエルにパレスチナ占領をやめよという圧力を取り除くことだ、と言った。

**グッドマン**：今日は7年間の不和の後イランとサウジアラビアが外交関係を再開することに同意したことから話を始めましょう。この合意は中東における中国の外交力の高まりを示すもので、中国の仲介で4日間両国が極秘交渉を行った末に到達した結論です。両国は今後2カ月以内に相手国に大使館を開設します。中国のトップ外交官王毅はこの合意を平和の勝利と呼びました。

（王毅外相の映像と発言）

王毅：これは対話の勝利、平和の勝利で、現在の動乱の世界にとって非常に良いニュースです。

**グッドマン**：：アントニオ・グテーレス国連事務総長も「イランとサウジアラビアの良き隣人関係は湾岸地域の安定にとって大切だ」と言い、今回の合意を称賛しました。ワシントンでの反応は、より穏やかなものでした。ホワイトハウス国家安全保障会議のジョン・カービー報道官は、バイデン政権は地域の緊張を緩和するためのあらゆる努力を支持すると述べたが、イランが「義務を果たす」つもりなのかどうかについては疑問視しています。イラン最高国家安全保障会議の書記アリ・シャムカニも金曜日に北京で次のように語りました。

（アリ・シャムカニの映像と発言）

**アリ・シャムカニ**：交渉の最後に、イラン・イスラム共和国とサウジアラビアは、7年間の対立に終わりを告げて、新しい章を始める結論に達しました。そして、二国の様々な問題を共に考え、地域の安全と未来を共に考え、地域外の西洋の国々や地域内のシオニスト国家の干渉を防ぐことを共に考えることに同意しました。・・・この新しい章が7年間の関係断絶を補い、地域の安全と安定に寄与し、この地域の人民の発展と福祉を促進することを希望します。

**グッドマン**：本日はクインシー研究所の副会長、『敵をなくすこと：オバマ、イラン、外交の勝利』（Losing an Enemy: Obama, Iran, and the Triumph of Diplomacy）等何冊かの本の著者であるトリタ・パルシをお迎えしています。トリタ、『デモクラシー・ナウ』によるこそ。まずイランとサウジアラビアの雪解けについて話してください。

**パルシ**：大きな展開です。両国の国交回復で両国の敵対が緩和し、両国が関係する国々の中の緊張が緩和される希望が見えるだけでなく、中国の尽力でこれが実現した事実も注目されます。これは前々から 2 年間以上にわたってイラクとオマーン努力していたのですが、成功しませんでした。中国の仲介で和解が成立したのは、これまで中国はこの地域で大きな外交的役割を果たすことに関心も影響力もなかったことを思うと、大きな変化です。この成功は地域だけでなく、それを越えて世界各地に衝撃波を送っています。

**グッドマン**：両国の秘密交渉で中国がどんな役割を担ったのですか。

**パルシ**：中国がこの役割を果たすことができたのには、非常に単純な理由が二つあります。まず、中国はイランともサウジアラビアとも友好関係をもっていました。米国と異なり、中国は両国の敵対に対して中立の立場でした。地域の複雑な紛争や対立に関して干渉したり巻き込まれないように慎重な姿勢を維持したので、こういう役割を担えたのでしょう。

また、中国はこの地域に軍事基地を持っていないこと、武器供給もしなかったこと、何処とも安全保障条約みたいなものを結ぶことがなくても、このような外交活動が出来たという点を見逃してはいけません。米国のやり方と違ったからです。そういう米国のやり方も最近ではほとんど見ることはありませんが。この成功によって中国が中東に大きな影響力を発揮する可能性はあります。イラン・サウジの関係正常化だけに終わらず、湾岸地域全体への進出の気配があります。そして、それが中国の野心を示していると思います。今年の後半に北京でイランと湾岸諸国の首脳会談を計画しています。従って、これはこれまでとは異なる地域安全保障体制創出への第一歩となるかもしれません。

**グッドマン**：バイデン大統領が記者会見を終えようとしたとき、記者から質問された映像があります。

（記者とバイデンの映像と発言）

**記者**：イランとサウジアラビア国交正常化をどうおもいますか？

**バイデン**：イスラエルとアラブ諸国の関係改善の方が世界にとっては良いよ。

**グッドマン**：次に、国家安全保障会議のスポークスパーソンのジョン・カービーに対するチャック・トッドのミート・ザ・プレスでインタビュー映像があります。

（映像と発言）

**ジョン・カービー**：あの地域の緊張緩和になることは何でも歓迎だよ、チャック。これでイエメンの紛争が終わらせることができ、サウジの人々はイランの支援を受けているフーシ派からの攻撃を受けなくなるなら、我々は歓迎だよ……。これがどこまで持続するかはわからないけど。イランは以前にも協定をやぶったことがあるからね。私たちは、イラ

ンがこの協定を実行することを望んでいるよ。緊張緩和になれば嬉しいよ。

**チャック・トッド:** イスラエルとサウジアラビアの国交正常化はどうなりますか？イランの存在でイスラエルは嫌がるのではありませんか？

**ジョン・カービー:** 我々はイスラエルがもっと中東に溶け込むことを望んでいる。アブラハム合意（アラブ首長国連邦とイスラエルの平和条約・国交正常化）を米は支持したし、もっとイスラエルとアラブの国が国交正常化するように協力するよ。昨年夏に大統領が中東訪問したのはそれを促進するためだったんだよ。最近オマーンがイスラエル民間航空機の上空通過を認めたのも、大統領訪問の成果だよ。サウジアラビアとイスラエルの関係正常化の道を開く紅海の二つの島をめぐる交渉も大統領の成果だ。このようにイスラエルとアラブの関係良化がどんどん進んでいるし、われわれはそのような進展を望んでいる。イラン・サウジアラビアの国交正常化がこれにどういう影響を与えるかは分からない。米国としてはアラブとイスラエルの関係改善を進めるだけだ。

**グッドマン:** バイデン発言とカービー発言をあなたはどのように思いますか？

**パルシ:** バイデン大統領は質問を正しく聞いていないのではないですか。米国が進めたアブラハム合意やイスラエルと中東の統合で答えているのは、どうも否定的な態度の表明みたいですね。二番目のビデオではジョン・カービーはこれは地域の緊張を緩和するから米国は歓迎すると言っています。それこそが大切な点です。今のところは、米国が作った外交的真空に中国が進出していることに、ワシントンは神経をピリピリさせていますが、中国の仲介であっても中東が安定すれば、結局米国にもよいことでしょう。

米国は奇妙にアブラハム合意ばかりを強調しています。確かにアブラハム合意はいくつかの湾岸諸国およびサウジアラビアとイスラエルの関係を良くするかもしれませんが、実際に解決しなければならない真の問題であるパレスチナ-イスラエル紛争には何の役にも立っていません。パレスチナ問題こそが中東平和と安定のために解決すべき問題です。パレスチナ問題に関する米国の態度を見ると、紛争を解決する気はないようです。それにアブラハム合意はパレスチナをアラブ世界から村八分して、むしろ紛争を激化させ、解決に向かわないようにしています。何故なら、イスラエルにパレスチナ占領をやめよという国際的圧力から解放する効果があるからです。アブラハム合意はイスラエルを紛争解決の方向へ向かわせる誘引を除去するのです。

では、アブラハム合意は何のためにあったのでしょうか。それはご存じのように、各国間の直行便開設などのためにすぎなかったのです。これは非常に奇妙なトレードオフのように思えます。米国はイスラエル一辺倒で、紛争を中立な立場で解決する仲介者として相応しくないことを、多くの国々が知ったのです。人々が米国でなく中国へ目を向け始めたのは当然です。

**グッドマン:** 今年後半にイランと湾岸諸国の首脳会談が北京で予定されていますね。どんな話がされ、どんな意味があるのでしょうか？ 中国は両者にとって最大の石油購入者

(trader) ですが、交渉仲介者 (trader) としての役割を話してください。

**パルシ:** 繰り返しになりますが、はっきりさせなければならないことがあります。これは中国が予定しているのもあって、イランと湾岸諸国が同意したかどうかは分かりません。多分同意すると思いますが。まだまだ分からないことが多いですが、そういうサミットが口に出され、実現の可能性があるということだけでも、大きな意味があります。ペルシャ湾は安全保障構造を持たない数少ない地域の一つです。中国が湾岸地域に関与し、武器販売とか安全保障条約などを結ばず、地域の発展と地域独自の安全保障構造開発に助力するのであれば、非常に重要な進展になるでしょう。それは植民地主義を含む欧米のやり方とは異なるアプローチとなり、地域の空白を埋め、安全を高めるでしょう。中国の視点から見れば、もちろんペルシャ湾の精油確保とペルシャ湾の安定が中国にとって必要です。米中関係の緊張が高まり、米が中国包囲を強化している現在、中国がこのような外交を展開して平和と発展に寄与する姿勢を世界に見せれば、米国の軍国路線がやりにくくなるでしょう。

**グッドマン:** 南アジアや中東諸国の反応はどうですか？

**パルシ:** レバノン、イエメン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、カタール、バーレーンなどの国は中国の動きを歓迎しています。イラン・サウジアラビア和解に反対しているのはイスラエルだけです。野党の指導者ヤイル・ラピッドはこれをネタニヤフのせいにして、イスラエルにとって非常に危険な流れと言いました。イラン・サウジアラビア和解でサウジアラビアがアブラハム合意でのイスラエルとの国交正常化に二の足を踏むか、あるいはより厳しい交渉になるのではないかと心配しているのです。しかし、これはどちらか一方という二者択一問題ではなく、サウジアラビアはイランと国交正常化した後今度はイスラエルと国交正常化することもできるのです。ここで大きな障害となっているのは、かつて二国解決案に同意してパレスチナ国家樹立を認めていたイスラエルがそれを放棄していることです。サウジアラビアなどアラブ連盟の中東和平案に反対していることです。世論調査では、サウジアラビア国民はイスラエルとの通商には反対していないが、二国解決案とパレスチナ国をイスラエルが承認しないかぎり国交正常化に反対しています。これは単なる国際交通問題ではなく、サウジアラビア人のアラブ民族主義感情に関わる重大な問題なのです。だから、サウジアラビア皇太子がイスラエルとの国交正常化に前向きであっても、国民感情を無視できないのです。イスラエルが国際社会が勧める和平交渉を本気で行う姿勢を示すことが重要なのです。

**グッドマン:** サウジアラビアが支援してまだ継続中のイエメン内戦にどのような影響になりますか？

**パルシ:** 私が希望を持っているのはその点なのです。サウジとイランが国交正常化し、お互いに内政不干渉すれば、イランが反乱軍フーシ派支援をやめ、フーシ派に圧力をかけるとサウジは期待しています。イエメン政府とフーシ派との停戦の期限が終わっていますが、両方もまだ停戦を守っています。これが内戦終結になればよいと期待しています。イランがフーシ派に影響力があるかどうかは分かりません。そう思われているようですが、かなり誇張が

あると思います。いずれにせよ、イランはこの面で何らかの成果を上げる必要があります。イエメン内戦は国内に原因があるのですが、宗派関係や地政学的事情で外からの影響も複雑に絡み合ってイラン・サウジの代理戦争みたいになっていましたから、イラン・サウジの和解でいい方向に向かうかもしれないと、私が話し合った多くの人は言っていました。

**グッドマン**：最後に、中国はロシアとウクライナの間でも、イラン・サウジの和解交渉と同じような役割を果たせると思いますか？

**パルシ**：数週間前に中国はロシアとウクライナの間を仲介するようなことを言いましたね。西側はそれを喜ばなかったけれど。中国が仲介を発表する前から西側は鼻であしらいました。発表されたものも大した内容のように見えなかった。しかし、将来いつかは、中国が和平交渉仲介の役割を果たすかもしれません。何故なら中国はロシアへの影響力があるし、それに中国はこの戦争で中立の立場で、米国のように一方の味方ではありませんから。米国は中国をロシア側と見ています。これは単細胞的の見方で、中国がウクライナの味方をしないからロシア側と見るのです。でもロシア側はそのような見方をしていないと思います。戦争そのものに関しては中国は中立です。

ここで大切なのは、現在はもう多極的世界になっていることの認識です。中国のような国 — そして将来はインド — が国際社会で重要な役割、おそらく外交や紛争解決で指導的役割を担うようになります。米国はそういう状況に適応するように柔軟になるべきです。気に入らない国の提案や措置を忌み嫌ったり敵視するのではなく、良いものを受け入れる謙虚な姿勢に変わるべきです。米国一極支配の時代の姿勢で世界、とりわけ中東で振る舞い続けると、つまり気に入った国や従順な国の味方続けると、問題解決どころか問題生産になります。世界の国々が平和や紛争解決のためには中国へ向かい、戦争を遂行するときは米国に向かうようになれば、それこそ米国にとって脅威です。しかし、そうである必要はありません。それを変えられるかどうかは、私たちの手にかかっているのです。

**グッドマン**：ありがとうございました。